

# シラバス

科目名	政治・経済	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年 全学科	展開	必修	選択
教科書名	高等学校 政治・経済(清水書院)			副教材名				
科目の目標	広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。現代社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論を理解させる。							
学習内容と進め方	現在の政治や経済のあり方について、基本的な知識を確認していく。教科書やワークシート、プリントを利用した学習を中心に行う。また、時事問題について、新聞の切り抜きをまとめた資料を使って、現在の様々な課題について触れ、自分の意見をきちんと持てるよう、進めていく。							
学習の留意点	(1) 2 学年で履修した公共の内容を確認し、その上でまだ触れられていない分野の内容を取り上げる。反復練習で学力を身に付けていく。 (2) 課題解決学習に取り組み、考察を深めさせる。							
月	単 元	授業時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)	
				1	2	3		
4	第1編第1章 現代政治のしくみと日本 1 政治とはなにか 2 法とはなにか 3 現代民主政治へのあゆみと基本原理	1 1 6	政治と自分たちの生活の関係について 法の種類、法律について 民主政治の成立とその思わぬ落とし穴	○ ○	○ ○	○ ○	政治に対して、無関心ではられない理由をきちんと理解している。 民主政治の成立過程とナチズムがどのような背景の下に出現したかを理解している。 三つの政治体制の違いを理解している。 日本国憲法の三大原理の背景を理解する。	・授業参加姿勢(主体性) ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出
6	6 基本的人権と新しい人権 (前期考査)	7 1	自由権・平等権・社会権・新しい人権とはどのような権利か	○ ○	○ ○	○ ○	日本国憲法の人権規定の部分がたいへん厚い(3分の1をしめる)理由を理解している。	・授業参加姿勢(主体性) ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
8	8 日本の政治機構	4	国会・内閣・裁判所の役割	○ ○	○ ○	○ ○	選挙権を行使するにあたっての基礎的な理解ができていない。また、有権者として、政治に関わっていくとする姿勢ができていない。 人口や産業が都市に集中し、地方が現在どうなりつつあるか、課題を見つけている。	・授業参加姿勢(協働性) ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
10	第1編第2章 現代経済のしくみと日本 1 経済活動 2 市場経済 3 国民経済と景気変動 4 物価とその変動  5 金融のしくみとはたらき  6 財政のしくみとはたらき 7 日本経済のあゆみ	2 1 1	経済主体と市場経済の原理 景気変動の要因と影響について デフレとインフレについて  金融の役割と機能について  歳入と歳出について 戦後復興から現在までの日本経済	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	経済活動の意味と役割を理解している。 景気変動の理論を理解している。 物価の変動が自分たちの生活にどう影響するか、実際の生活に照らし合わせて考える。 経済活動における金融の役割を理解している。 日本の財政の実情と課題を理解している。 復興期、高度経済成長期、石油危機、バブル経済期、失われた20年の特徴を理解している。 企業の役割、社会的責任について理解している。 労働基本権をきちんと理解した上で、日本における雇用や労働環境の変化を取り巻く現状と課題を考えている。	・授業参加姿勢(協働性) ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
12	第2編第1章 現代の国際政治・経済 1 国際社会の成立と国際法 2 国際連合と国際協力  3 国際社会の変遷と動向  4 国際紛争と軍備管理 (学年末考査)  2 3 (家庭学習期間)	2 3 4 5 1	国際法の成立とその役割 国際連合の役割とその課題  冷戦及びその終結後の国際関係の展開  地域紛争とテロリズムの背景について 軍縮への取り組みと課題	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	国際法に強制力がないことを理解している。 国際連合をはじめとした国際機構の意義や役割を理解し、時事問題にも関心をもっている。 第二次世界大戦後の国際関係について、概略をつかんでいるか。最近の大国の動向について関心をもっているか。 冷戦終結後の地域紛争や民族紛争の実情を理解する。紛争の解決に対して、自分が協力できることは何かをきちんと考えているか。	・授業参加姿勢(主体性) ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
評価の観点	観 点	趣 旨						
	1 知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。						
	2 思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。						
評価基準	3 主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。						
	1 知識・技能	A 基本的な概念や知識を体系的に理解している。 B 基本的な概念や知識を体系的に概ね理解している。 C 基本的な概念や知識を体系的に理解が不十分である。						
	2 思考・判断・表現	A 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 B 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を最低限身につけている。 C 論理的に考察する力、本質を捉える力、理解した知識を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけていない。						
評価基準	3 主体的に学習に取り組む態度	A 社会や世界と関わるために、積極的に様々な資料を活用しようとしていたり、粘り強く考えたりしようとしている。 B 社会や世界と関わるために、積極的に様々な資料を活用しようとしているが、十分とはいえず、まだ向上の余地がある。 C 様々な資料を活用しようとしていたり、粘り強く考えたりしようとしていない。						